

東海道新幹線新駅対策特別委員会会議録

令和4年12月5日

寒川町議会

出席委員 天利委員長、山田副委員長
小泉委員、山上委員、橋本委員、横手委員、岸本委員、黒沢委員
佐藤（一）議長

説明者 廣田拠点づくり部長、白井倉見拠点づくり課長、川部副主幹、廣田主任主事
(案 件)

1. 新幹線新駅誘致とツインシティ倉見地区まちづくりの経過等について
(拠点づくり部倉見拠点づくり課)
2. その他

(付託陳情)

1. 陳情第10号 「ツインシティ計画」の「経済効果」の再検証を求める陳情

午前9時00分 開会

【天利委員長】 皆さん、おはようございます。ただいまより東海道新幹線新駅対策特別委員会を開催いたします。

本日は、次第のとおり、その他を含めて案件2件、付託陳情が1件ありますので、どうぞよろしくお願いたします。

本日の進め方につきましては、次第のとおり、案件の審査、付託陳情の審査の順で行ってまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

それでは、傍聴者がございますので、入室を許可してよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【天利委員長】 それでは、傍聴者の入室のため暫時休憩といたします。

【天利委員長】 休憩を解いて会議を再開いたします。

それでは、執行部が入室するまで暫時休憩といたします。

【天利委員長】 休憩を解いて会議を再開いたします。

それでは、案件1、新幹線新駅誘致とツインシティ倉見地区まちづくりの経過等について説明を求めます。

廣田拠点づくり部長。

【廣田拠点づくり部長】 おはようございます。それでは、拠点づくり部倉見拠点づくり課所管の新幹線新駅誘致とツインシティ倉見地区まちづくりの経過等についてご報告いたします。説明に当たりましては、白井課長より行います。よろしくお願いたします。

【天利委員長】 白井倉見拠点づくり課長。

【白井倉見拠点づくり課長】 おはようございます。9月の特別委員会以降ですが、地元の皆様にごできる限りまちづくりの情報を発信し、情報の底上げを図り、倉見地区の将来像の共有を図りたいと考え、

役員会、幹事会の実施、まちづくりニュースの発行、産業まつりの機会を捉え、倉見地区のまちづくりの取組状況など情報を発信してまいりました。

それでは、前回9月5日の特別委員会以降の経過等につきましてご報告させていただきます。経過につきましては、タブレット01の1ページ、新幹線新駅誘致とツインシティ倉見地区まちづくりの経過等についてに基づきご報告させていただきますので、よろしくお願いいたします。

まずは9月26日に、まちづくりニュース第41号を地元関係者に向けて配布いたしました。議員の皆様にはタブレットを通じて配信済みですが、参考として資料は2ページから5ページとなります。41号では、6月末から7月初めにかけて行いましたまちづくり説明会の内容となっており、倉見地区のまちづくりの現時点における取組状況、今後の地元の合意への進め方などにつきましてお伝えしたものとさせていただきます。後ほどご覧いただければと存じます。

続いて、11月2日、地元組織である東海道新幹線新駅誘致地区周辺まちづくり連絡協議会の令和4年度3回目となります役員会を北部文化福祉会館で開催いたしました。当日は、今年度第2回目となります幹事会開催に向けての事前確認で、講演会の開催、ブロック協議会の実施など、今後の連絡協議会の活動予定について意見交換を行いました。役員の方からは、まちづくり説明会後の話として、町としての考え方、実際やってよかった、悪かった点、こういう方向に持っていけなかったのかなどフィードバックをしてほしい、現在の町の考えを倉見地区の絵として示してほしいなど、まちづくりに対するご意見をいただいております。

続きまして、11月20日には、さむかわ中央公園で開催された第38回寒川町産業まつりで、ツインシティを紹介するパネル展示など普及啓発をブース展示により県駐在事務所とともに行っております。当日は、多数の方にブースにお寄りいただき、VRを使用し、将来の倉見地区のイメージを共有したり、パネルを使用し、現在の倉見地区の取組状況などをお話しさせていただき、倉見地区のまちづくりについてご理解を得てまいりました。お寄りいただいた方からは、新駅の誘致は行政が頑張らないとできない、頑張ってくださいなど、お声をいただきました。

続きまして、11月25日には、期成同盟会幹事会が書面会議にて開催されました。資料は6ページから15ページにおつけしておりますが、本年度の事業実施状況並びに来年度の予定についての情報共有でございます。

続いて、11月28日、地元組織である東海道新幹線新駅誘致地区周辺まちづくり連絡協議会の令和4年度2回目となります幹事会を倉見地域集会所で開催いたしました。当日は、第1部として幹事の皆様に、まちづくりへの住民参加について、他地区の事例から学ぶまちづくりの進め方、取組方として、藤沢市健康と文化の森地区のまちづくりについて、同地区で委託業務を行っている昭和株式会社より講師の方を招き講演会を開催いたしました。今回の講演会の趣旨は、他地区でどういうふうに進められているのか、土地利用計画図などができるまでの過程を説明していただき、今後の倉見地区のまちづくりの進め方の参考にしていただく考えから行ったものです。内容といたしましては、同地区では、新駅を中心としたまちづくり計画の具現化が進められており、そうしたまちづくりの進め方について講演をしてもらい、連絡協議会の今後の進め方について地元の皆様と情報共有を図ったものです。幹事の方からは、藤沢市は地元計画を示してから7、8年で現在に至っています。こういった事業を行う上では

早いのでしょうかなど、ご質問をいただきました。第2部では、今後の連絡協議会の活動予定としまして、引き続き年度内におきましては、連絡協議会を通じまちづくりニュースの発行、ブロック協議会などを開催し、まちづくりの情報を発信し、倉見地区の将来像の共有を図り、町主導で事業手法の話と考えていることとお話しさせていただきました。また、町の考えを取り入れた具体的な絵については、神奈川県と協議し、具体的な絵をご提示できる段階にしていきたいと思いますとお話しさせていただき、幹事の皆様と今後の取組について共有を図ってまいりました。

続きまして、11月29日でございます。県と平塚市、寒川町で構成するツインシティ整備調整協議会が書面による会議で開催されました。役場内にあります県の寒川駐在事務所における本年度の事業実施状況及び予定や来年度の予定の情報共有でございます。

続きまして、11月28日から12月4日にかけて、県期成同盟会主催の絵画コンクールの作品展示が町民センターで行われました。寒川町の児童の入選作品については、資料16ページ、17ページにおつけてしております。例年行っております啓発活動でございますが、将来新駅が実現した際の世代となる子どもたちに新駅誘致の取組について知っていただく機会として大きな効果があると考えとともに、新幹線と新幹線がもたらす新しい町の将来の姿を「夢はこぼ新幹線・私たちの未来のまち」というテーマで1枚の絵に表したものでございます。将来まちづくりに参加していただくきっかけになればと思っております。

なお、入選者につきましては、12月4日昨日ですが、表彰式が執り行われたところでございます。

記載された内容については、以上となりますが、今後につきましては、幹事会の報告の中で申し上げたところですが、引き続き年度内におきましては、連絡協議会を通じまちづくりニュースの発行、ブロック協議会などの開催、特別委員会勉強会で使用したVRなどを活用し、まちづくりの情報を発信し、地元の皆さんの情報の底上げを図り、倉見地区の将来像の共有を図るとともに、今後のまちづくりの進め方について理解を深めていただき、その後協議会に諮りながら町主導で事業手法の話へとと考えております。

また、町の考えを取り入れた具体的な絵につきましては、今後町が主体的にまちづくりを進めていくということ、また、地元の皆様も、具体的な絵などありませんと、ご意見も言えない、一体何に合意すればいいのか分からないということもございますので、まずは神奈川県と協議し、具体的な絵を提示できる段階にしていきたいと思いますと考えております。

先ほど申し上げました地元連絡協議会ブロック協議会の開催に当たりましては、幹事の皆様と調整を図り、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら実施していきたいと考えております。

最後に、JR東海への要望、技術相談につきましては、神奈川県と調整を図り、実施してまいりたいと考えております。

報告は以上となります。

【天利委員長】 今説明が終わりました。これより質疑に入りますので、質疑のある方はよろしいでしょうか。

小泉委員。

【小泉委員】 それでは、ウェブアンケートについてお伺いしたいと思います。参考資料1の記載を

見ると、総サンプル数1,000を想定というようなことで、いろんな項目が出ているところなんですけども、実は私も昨日たまたまポインタアンケートを見たら、このアンケートが載っているのを見て、試しにやってみたんですけども、具体的にはどんな調査会社に委託して出して、何件全体で取ろうとしているのか、全体が1,000件ということでもいいのかどうか、あと実はポインタアンケートを見てみたところ、最近のウェブアンケートって、答えると答え方にポイントの形で幾らかお礼の還元をするというものになっていまして、このアンケート全体に答えると7ポイント、7円分もらえるというような設定になっていて、考えると1,000件で35万円の予算って結構大きいなという印象もあるんですけど、その辺はどうなっているのか、分かる範囲で教えていただければと思います。

最後に、ウェブアンケートを取った後に、どういうふうこれを活用していくのかという点もお伺いいたします。

【天利委員長】 川部副主幹。

【川部副主幹】 まずウェブアンケートなんですけど、同盟会の事業でやっているところで、まず活用から最初お話しさせていただきますと、こちらにつきましては、同盟会の10市町の中で認知度がどれぐらいあるかという調査と、それに伴って普及啓発をしていくに当たっては、どういうところに、例えばポスターを設置したり、チラシとかを配架したりというところについての状況を知るために行っているものです。1,000件の区域につきましては、圏央湘南都市圏の10市町にそれぞれ100ずつという形でアンケートを実施していただいています。どこの業者さんかについては、すみません。まだあちらからどこの業者というのは聞いていないので、今の段階では分からないんです。なぜ1,000件かというところにつきましては、10市町に均等に100ずつアンケートを実施している関係で、例えばあまり多くし過ぎてしまうと、うちみたいな小さいところについては、回収がその件数分できない可能性もあるというところで100という数字にさせていただいたところです。

以上です。

【天利委員長】 他にございますでしょうか。

黒沢委員。

【黒沢委員】 先ほどの課長からの説明の中で、地元の皆さんからは具体的な絵を早く出してくださいとか、それから、そういう話合いが進められているという部分については、比較的地元の皆さんも前向きに捉えていただいている方が増えてきているのかなと感じます。実際我々委員会の中でも、この間柏の葉キャンパスタウンを見せていただいて、駅ができたときに実際に駅周辺にどういう機能が備わっていないといけないかというのがある程度理解できた部分です。地元の皆さんにも今そういう捉え方をさせていただいているのかなと思うんですね。実際にこの倉見に駅を呼び込んだ際に、この周辺、まずは先行整備区域とされている部分にどういう機能をつけていかなければ、駅に対応する町ができないというようなことをしっかりと理解した上で議論していきたい、そういう態勢を取っていただいているのかなと思うんですけども、そういう理解でよろしいですかね。

【天利委員長】 白井課長。

【白井倉見拠点づくり課長】 地元の皆様とは、今年度まず6月、7月まちづくり説明会、それと幹事会、役員会、こういったところの中で、まずは土地利用の必要性について、そして今お話がありまし

たけど、それを支える骨格道路、駅前の交通広場、こういったところの必要性につきまして、まずご理解をいただくべくお話を重ねてまいりました。そういった中でこういったお話が出てきたということで、町といたしましても、地元の皆様のお声にお応えしていきたいというところで、今後県の駐在事務所の方がまず最初になるかと思うんですけども、どういうふうに進めていくのかも含めまして、お話をさせていただきながら進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

それで、説明につきましては、資料のページといたしましては3ページをご覧くださいければと思います。こちらはニュースの中でまちづくりの説明会の中で取り組んだゾーニング図となっております。役員会、幹事会でもこちらを提示させていただきまして、駅前に必要な商業、業務エリア、また住宅エリア、こういったものの必要性につきまして、皆様と意見を取り交わしまして、将来の倉見地区の具現化が図れるよう情報の共有を図ってまいりましたので、よろしくお願いたします。

【天利委員長】 黒沢委員。

【黒沢委員】 そういう中で担当課としての肌感でいいんですけど、具体的にこういう機能が駅の周りには必要なんだよという話ができるような態勢になった中で、こういう説明を続けてきた中で、地元理解は大分進んできたなという感覚を持たれているのかどうか、地元の皆さんからも具体的に絵を見せてくださいという話があるということは、大分そういうことに、駅周辺の機能を十分理解した上で、それで地元からしっかりと意見を出していこうというような態勢が少しずつ整ってきているのかなと私は捉えるわけですけども、そういう部分では担当課としては、肌感としてどう捉えているのかお聞かせいただければと思います。

【天利委員長】 白井課長。

【白井倉見拠点づくり課長】 地元の皆様と意見を交わした中で、さらに具体的な絵をというお話をいただいているということに関しまして、まちづくり説明会を含めまして、いろいろなご意見をいただいております。そういった意見をいただいた中で、こちらもお答えをお返しさせていただきまして、地元の皆様とお話をさせていただいてまいりました。私の感じている中といたしましては、一步一步ですけども、皆さんにこういったものの必要性というものをご理解していただいているものと感じておるところでございます。よろしくお願いたします。

【天利委員長】 黒沢委員。

【黒沢委員】 その部分については、担当課の皆さんの地道な努力が少しずつ浸透していつているのかと思いますし、地元の皆さんにも、自分たちの地域はどうなるのかということを理解しようと努力していただいているのかなと思います。

最後にもう一点、JRとの技術的なアドバイスをいただくための話合いなんですけど、技術的なアドバイスって具体的にどういうことなのか、例があればお聞かせいただきたいんですけど。

【天利委員長】 川部副主幹。

【川部副主幹】 JRの技術相談につきましては、初回は令和元年12月に行いまして、今第2回目の実施について検討調整しながらやっているところでございます。こういったところについての相談をしているかにつきましては、今骨格道路とかを地元と話し合っているんですけど、道路につきましてJRと交差する例えば角度とか、JRの下を通るといときには、高さがどれぐらい必要とか、そういっ

たものについての相談を今考えているところで、その資料なるものについては、今神奈川県で委託していただけていますので、そういった成果をもって、またJR東海さんと技術相談を行ってまいりたいと思っております。

以上です。

【天利委員長】 他に質疑はございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

【天利委員長】 それでは、これをもって質疑を終結いたしたいと思います。お疲れさまでございました。

暫時休憩といたします。

【天利委員長】 休憩を解いて会議を再開いたします。

続きまして、案件2、その他であります、委員の皆様から何かありますでしょうか。

(「なし」の声あり)

【天利委員長】 事務局から何かありますでしょうか。ございませんか。

(「なし」の声あり)

【天利委員長】 それでは、案件2につきましては、終了といたします。

続きまして、付託陳情の審査に入りたいと思います。それでは、陳情第10号「ツインシティ計画」の「経済効果」の再検証を求める陳情を議題といたします。まず、この陳情について事務局をもって朗読させます。

亀井次長。

【亀井事務局次長】 それでは、陳情を読み上げさせていただきます。

陳情第10号。寒川町議会議長様。令和4年11月11日。寒川町小谷1-7-2、山蔦紀一。

「ツインシティ計画」の「経済効果」の再検証を求める陳情。

1、陳情の要旨。

寒川町倉見地区に新幹線新駅を誘致することを骨格とする、「ツインシティ基本計画・整備計画」が23年前から進められています。しかし、この計画の根拠となった「経済効果の予測」は、2007年に神奈川県から発表されて以降、15年間一回も「再検証」されていません。これでは、この計画は成功しません。この「再検証」を求める「要望書」を、急ぎ、町並びに神奈川県に提出して下さい。

2、陳情の理由。

「ツインシティ基本計画・整備計画」が策定されてから23年経ちましたが、その間に次のような大きな社会情勢の変化がありました。これは、計画推進の是非に関わる非常に大きな変化です。

1) 第1の大きな変化は2010年、JR東海が「リニア中央新幹線」の着工を発表したことです。もし、リニア新幹線が開通すれば、倉見駅から橋本駅を經由し小1時間で名古屋へ行けるようになります。当然、「ツインシティ計画」の経済効果を劇的に変えると思われれます。

2) 第2の大きな変化は、町財源悪化の懸念です。

高齢化率は2050年に38%に達し、これに伴って町の医療・福祉費などの負担は間違いなく増えます。

また、高度成長時代に建設した下水・道路・学校・庁舎などの町のインフラの更新状況がぐっと近づきました。

「ツインシティ計画」だけでなく、今までの町の計画を、全てその存在意義から見直す時期に来ていると思います。

神奈川県も、3,500億円あまりのリニア橋本駅関連の投資をするので、財政的な余裕はなくなると思われる。

3) 第3の大きな変化は、当時当たり前であった「税収増を約束せず、必要な財源を考慮せず、夢を追う計画」が通用しなくなって来たことです。

政府は、「地方への交付金・補助金の費用対効果」を調べ、「KPI」を重要視する方針（新経済・財政再生計画改革工程表2019）を示しています。

また、ロシアのウクライナ侵攻に伴う円安やインフレに対応するため、国は大規模な財政出動を計画しており、その多くが次世代の負担になる可能性が指摘されています。

楽観的に「景気が上がればなんとかなる」と言えなくなって来ていると思います。

以上です。

【天利委員長】 朗読が終わりました。陳情第10号につきましては、陳情者の山蔦紀一さんから意見陳述を行いたい旨の申出がございましたので、これを許可いたします。

それでは、陳情第10号に対しての意見陳述者の移動のため暫時休憩といたします。

【天利委員長】 休憩を解いて会議を再開いたします。

それでは、これから意見陳述者の方から本陳情における趣旨説明をしていただきます。説明は5分以内でお願いいたします。5分の時点でベルが鳴りますので、速やかに終了していただきます。趣旨説明終了後、委員から意見陳述者の方に対する質疑を行います。質疑が終了してから意見陳述者の方は傍聴席に移動していただき、委員による陳情の審査を行います。

それでは、ただいまから陳情の趣旨説明を行います。説明の際は冒頭氏名を述べてからご説明をお願いいたします。それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

【山蔦紀一意見陳述者】 小谷の山蔦元議員ですので、お久しぶりでございます。今日は陳情をさせていただきます。

皆さんの手元に陳情書の頭書きと、それから意見陳述申出書5部とそれに関する資料5部を事務局に提出いたしました。皆さんの元に届いているものと思います。意見の陳述に入りますが、25年前ですが、ツインシティ基本計画というのが策定されました。2002年にツインシティ整備計画並びに新駅設置促進期成同盟会の結成がなされ、一連の活動を寒川町はやってきました。その5年後です。2007年に神奈川県がこの計画の経済効果を予測しました。これは公表されております。この経済効果は、ツインシティ計画の根拠でしたが、その後リニア新幹線の着工が決まり、しかしこの大きな変化に応じた経済効果の再検証は今まで一度もされておられません。

もし、今この経済効果の再検証を行わなければ、費用対効果の観点から投入すべき総工事費の上限が決まり、行われればそういうことが決まってきます。これは計算上決まると思います。それからツイン

シティ整備に係る関係自治体の費用負担の割合や、負担する関係自治体の合併の話合いも進むものと思われる。

3番目に、相模線複線化の優先度を定める議論を始めることができますと思います。

それから4番目、町民や関係団体との合意形成が進み、JR東海に対して請願する準備が整うと思われます。単にお願いしますということだけじゃなくて、きちんとこういう経済効果があるから、これぐらいの投資はやっておかしくないだろうということが言えるようになると思います。

議員さんの中でも、複線化のほうが優先課題ではないかという声を発していらっしゃるように聞いております。もし、この再検証に例えば時間がかかる、1年も2年もかかるということであれば、逃げ水にならないように次の対応を取るべきであろうと、そろそろそういう時期に来ているのではないかと。25年といえば、このときに生まれた子が25歳なわけですね。これから10年、15年かかると言われているリニア新幹線をやるべきか、やるべきじゃないかとか、もっとこういう方法があるじゃないかという検討を行うには、私みたいに80を超した人の意見を聴くんじゃなくて、17、8歳、少なくともそういう人たちの意見を聴いて、あんたたちの将来はこうなるんだよという話をしていくべきだろうと思います。

ここに4番目の(1)で書いてあるように、もし、そういうふうに時間がまだこれ以上かかるということであれば、関連する来年度の町の予算を町独自で大幅に減額するとか、既に組織を変えるという話はこの前委員会で出ていましたが、人件費を含めて減額する方向を取るべきではないかということが考えられます。

2番目、新駅設置促進期成同盟会を脱退するという意思表示をする。これは既にほかの市町村が1回やったことがありますけど、2回ですか。やったことがあると思いますけど、幹事を中心になっている寒川町が、そこまでやるかと言われるかもしれませんが、こういう大事な経済効果がはっきりしない中でこのまま進めるのであれば、やはり脱退するということも考えざるを得ないかもしれません。

それから、最後に5番目ですが、経済効果を再検証することなくこのまま進めば、新幹線の誘致が正しいということを言えなくなって、誘致ができなくなる可能性も大いにあると思います。ツインシティ整備も進められなくなるだけじゃなく、町に大きな財政負担をもたらすと思います。

【天利委員長】 山蔦さん、すみません。5分が過ぎましたものですから。

【山蔦紀一意見陳述者】 分かりました。じゃ、これを読んでいただければ十分だと思いますので。

【天利委員長】 恐れ入ります。意見陳述の途中なんですけど、意見陳述者に対しまして委員の皆様から質疑等がございましたら、お受けしたいと思いますので、質疑はございますでしょうか。

黒沢委員。

【黒沢委員】 説明の4番に、そういう見直しが図られないということであれば、町の予算を減額する、それから期成同盟会を脱退すると、この意味をもう少し詳しくお知らせいただきたいんですが、これをやることによって、陳述者が言われる再検証が行われるという根拠になるのかどうか、その辺のお考えについてお知らせいただければと思います。

【天利委員長】 山蔦さん。

【山蔦紀一意見陳述者】 ここに書いてあるのは、もし、そういう再検証をやるのに時間があまりにもかかるようならば、こうなるというので、原因と結果が、今、黒沢さんのご質問と逆になるんですけ

ども、こっちのほうが優先されるだろうと、再検証をした上でないと今後進めることができないんじゃないですかという考えでございます。

以上です。

【天利委員長】 黒沢委員。

【黒沢委員】 あと、陳述者から、2007年に出された経済効果というのが、全てであるという捉え方なのかなという気がしてならないんですけど、それは私の捉え方がちょっと違うので、意見が変わると思いますが、この経済効果をもって駅を誘致し、そして駅周辺の整備をやり、まちづくりもやりということまでつなげるとお考えなのかどうか、その辺について、ここに出されている経済効果の意味をどう捉えているのかお聞かせいただければと思います。

【天利委員長】 山蔦さん。

【山蔦紀一意見陳述者】 今最初に申し上げました平成19年に、神奈川県の新駅設置に関する経済効果等推計調査というのが出ているんですね。これを基本に進めているんです。神奈川県はこれしか出していません。これはこの計画の根幹をなすものであって、もし、この経済効果が発表されていなければ、新幹線新駅の誘致並びに倉見のツインシティ計画を進めることはなかったと思います。その点でこれを一度よく読んでいただきたいのもあるんですが、ここにははっきり、川崎市の新百合ヶ丘の利用乗降客の増減とか、あの辺の経済効果まで含めているんですね。それぐらい大きく捉えて、だからここに駅が、倉見とはそのとき決まっていなかったかもしれませんが、もうちょっと先だったか、覚えはないんですけども、だからここに新駅を誘致するんだという論拠になっているわけですね。このときはリニアはもちろん話に出ていません。この論拠が崩れているにもかかわらず、まだ進めているというのは、経済効果だけじゃなくて、いろんなものを総合して、これが出発点になっているという考えで進めてきているものと私は理解しております。

以上です。

【天利委員長】 黒沢委員。

【黒沢委員】 あくまでも誘致、県として誘致活動するための1つの根拠としての捉え方ということでしょうか。

【天利委員長】 山蔦さん。

【山蔦紀一意見陳述者】 県の考えに沿ってやっているというふうに私はあまり理解していないんですけど、期成同盟会その他の議論の中で県にも財政負担してくださいよ、JRはこういうふうにはまちづくりするから駅を造ってくださいよと言っているのであって、ほかにいろんな理由はもちろんあると思います。ただ、夢を追うということと無駄遣いと境目というのは、非常に微妙でして、ちゃんと押さえを取ってやるからこそ夢が具体化するのであって、無駄遣いにならないという考えですから、その根本が大きくこのリニアによって狂ってきて、そうすると、見直さざるを得ないんじゃないか、見直したほうがいいんじゃないかということで、私はやめろとか、そういう話をしているんじゃないかと、根拠となる経済効果をきちんとどこかで再検証するように、町議会から県とか、町にやっていただきたいということをお願いする陳情なんですね。ですから、私の意見はここで、私は、新駅を造れば、それは非常にいいことはいっぱいあると感覚的には思いますけど、夢のある話でいいんですけど、じゃ、正しいこと

なのか、次世代に負担をもたらすような大きなミスをやる可能性があるんじゃないか、だからちゃんと検証したほうがいいですよ、今早めにとという意見でございます。

以上です。

【天利委員長】 他にございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

【天利委員長】 山蔦さん。

【山蔦紀一意見陳述者】 1つだけ追加して聞きたいんですけど、この前情報公開請求をやったんですけど、そのときに担当課でもって減歩率の、それは別問題ですけど……。

【天利委員長】 別なので、申し訳ないです。

【山蔦紀一意見陳述者】 分かりました。そういうことをやっているということだけご承知おきください。

【天利委員長】 担当が違うものですから。他にございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

【天利委員長】 以上で質疑を終結いたします。お疲れさまでございました。暫時休憩いたします。

【天利委員長】 休憩を解いて会議を再開いたします。

この陳情審査の進め方について、委員の皆様のご意見をお伺いしたいと思いますので、いかがでしょうか。皆さん、どうでしょうか。担当課に入っていていただいて説明を再度求めるか、どういたしましょうか。

岸本委員。

【岸本委員】 改めて担当課に来ていただいて、説明だけいただければと思いますけど、いかがでしょうか。

【天利委員長】 そういう意見が出ましたものですから、担当課に町の考え方についてというご意見がありました、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【天利委員長】 それでは、担当課より本陳情の内容に関する現状等につきまして、分かる範囲で確認するというところでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【天利委員長】 では、担当課に入ってくださいますので、暫時休憩いたします。

【天利委員長】 休憩を解いて会議を再開いたします。

ただいま陳情第10号の審査を行うに当たり、本陳情内容に関わる現状等について、担当課に分かる範囲で確認したい旨のご意見がありましたので、執行部より説明をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

臼井課長。

【臼井倉見拠点づくり課長】 ツインシティ計画の経済効果の再検証を求めることについてですが、現在町では、地元の皆様と倉見地区の将来像の共有が図れるよう、意見交換、勉強会に取り組み、倉見地区のまちづくりについてご理解が得られるよう取り組んでいる状況でございます。

町といたしましては、経済効果を算出するに当たりましては、今後地元の皆様との対話の結果、新駅の設置に伴うまちづくりの方針について、地元の皆様と共有することができ、どこにどれだけの費用がかかるのか、そのようなことが把握できたときに、それによりどれだけの経済効果が波及するのか、そういう検証を行うことがよいものと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【天利委員長】 川部副主幹。

【川部副主幹】 課長の補足の説明をさせていただければと思います。ツインシティの経済効果の再検証を求める陳情ということで、陳情の趣旨、経済効果の予測の再検証を求めることについてです。今回の陳情につきましては、日頃町が行っている新駅誘致及びまちづくりの情報が伝わり切れていないというところもあって、疑問を感じていらっしゃると思っております。今後は必要な時点や場面を捉えて情報提供に努めてまいりたいと考えております。

まず、今回の陳情に対する結論から申しますと、課長の説明のとおり、町では、陳情者がおっしゃるとおり、経済効果推計の再検証をしていくことは重要と考えておりますが、未確定な部分が多い現段階では、県に求めることについては考えておりません。

なぜ再検証について県に求めないかについては、まず、陳情の理由の中で、ツインシティ基本計画につきましては2000年3月に策定しまして、その後2002年4月にツインシティ整備計画が策定され、県、市町それぞれがツインシティのまちづくりを進めているところでございます。

一方、新駅誘致に伴う経済効果につきましては、2007年に神奈川県による平成19年度新幹線新駅設置に伴う経済効果等推計調査を行ったもので、調査の目的としましては、神奈川県では県央湘南都市圏において、幹線道路網や鉄道網の整備により交通軸を充実させるとともに、東海道新幹線新駅の誘致及び交流連携の拠点となるツインシティの整備を進めて交流と連携を実現するネットワーク型の都市圏の形成を図ることとしており、この調査については、そのうちの東海道新幹線新駅の設置についての新駅の利用者推計や時間短縮効果などの便益の推計、及び新駅設置による都市圏域における経済効果の推計を行うことにより、新駅設置効果を明確にすることを目的に実施されたものでございます。

県が経済効果推計調査を行ってから15年ほどたっているんですが、その間2007年に、2025年に首都圏から中京圏にリニアの営業運転をするという目標の方針を表明して、2010年に、目標年次を2025年から2027年にリニアを延期するという発表をされております。

リニア中央新幹線につきましては、開業すれば東海道新幹線新駅の需要にも大きく影響していくものだと考えております。また、町の財政的な懸念や世界情勢の問題もあって、ツインシティ整備計画と町の計画が通用しないとか、見直すことにつきましては、新駅及びツインシティ倉見地区のまちづくりにつきましては、本町の都市未来拠点を形成する事業でございます。地域の利便性の向上はもとより、町全体の活力創出及び本町の持続的発展に寄与する事業で、必要不可欠な未来への投資であると町では考えてございます。事業費の縮減とか、町の単年度負担の平準化、こういったものには当然努めていくとともに、長期的視点の下に関係者と協議連携しながら進めてまいりたいと考えております。

そういったこと踏まえて、現在町では地元協議会を中心に、まちづくりについて意見交換を重ねている段階で、かつ新駅設置に向けて同盟会を通じて要望活動等を行っております。その期成同盟会の中で令和4年度には、同盟会事務局である神奈川県より、令和4年度の新規事業として、新駅設置効果の調査研究とかで観光の観点からの効果、新幹線の物流利用についてなどの調査研究もしていく考えが出てきまして、残念ながら令和4年度については、契約がうまくいかなかったこともありまして、令和5年度に改めてそういったことも行っていく報告を受けております。そういった調査結果につきましては、まちづくりに活かしていけるよう努めてまいりたいと思っております。

ツインシティ倉見地区のまちづくりにつきましては、地域の利便性の向上はもとより、町全体が継続的に発展し、今後、今も未来も住み続けたい持続可能な都市の形成に寄与する事業だと考えております。陳情要旨にあります経済効果推計の再検証を求めることにつきましては、より精度の高い検証としていくため、まずはまちづくりの熟度を上げて、それに合わせた広域交通ネットワークや県央湘南都市圏の南のゲートの形成がされる状況に至る段階まで進めていくことが、まずは重要だと考えております。その状況に至っていない現在の状況下では、まずは精力的にまちづくりとしての取組を進めて、県央湘南都市圏の南のゲートを県とともに形成し、新駅設置判断につなげていき、不確定な部分を確定していける段階に至ったときに、改めて県に対して再検証のお願いをしていきたいと考えております。

以上です。

【天利委員長】 ただいま執行部からの説明がありましたが、質疑等がございましたらお受けしたいと思っております。いかがでしょうか。

小泉委員。

【小泉委員】 先ほど陳情者さんからは、参考というところにも書いているのですが、倉見20キロ圏というのが、川崎市の新百合ヶ丘周辺まで含むというような発言及び記載がありまして、県の東海道新幹線新駅設置に伴う経済効果推計についてという文章を見ると、倉見20キロ圏域というのは、垂直、つまり南北方向は寒川町倉見地区を中心とした20キロ圏で、水平、東西方向については隣接駅である新横浜駅及び小田原駅との中間点を範囲として設定したと記載があつて、市町村名のところに、併せて厚木市、綾瀬市、伊勢原市、海老名市、相模原市、座間市、茅ヶ崎市、平塚市、藤沢市、大和市、愛川町、大磯町、清川村、寒川町ということで、新百合ヶ丘周辺というのも完全に横浜とか川崎を含んでしまうのかなと聞こえてしまうんですけども、県の資料を見ると、当然そこまでは、横浜とか川崎まで含まれていないという書き方をしているんですね。町としてどちらが、県の記載で正しいという認識でよろしいのかどうか、そこを確認取らせていただきたいと思ひまして、質問いたします。

【天利委員長】 川部副主幹。

【川部副主幹】 小泉委員おっしゃるとおりの調査範囲でやっているところでございますが、基本的に県央湘南都市圏以外の、県央湘南都市圏の同盟会に加入している10市町以外にも当然この調査というか、新駅が設置されることによって利用される方というのは、もっと幅広くいらっしゃると思うんですよ。なので、同盟会に加入していない範囲までの影響を調べているところだと思うんですけど、そういった中で横浜、川崎の一部について、駅を中心とした圏域の範囲の中に入っておりますので、そういったところの方に新駅を利用していただけるように、町としても十分考えてやっていかなければいけない

かなとは思っております。すみません。答えていないかもしれないですけど。

【天利委員長】 川部副主幹。

【川部副主幹】 出ている結果に基づいて町も認識しているところで、それを基にまちづくりも考えていきたいというところでございます。

【天利委員長】 倉見駅を中心とした20キロ圏内市町村があると思うんですが、そこはそこで明確になっているわけですよね。今、川部副主幹が言われたように、そのほかの地域の利活用もあるんじゃないかという想定で、19年の経済効果というのが出ていると認識していいのか。

川部副主幹。

【川部副主幹】 大変申し訳ございません。範囲は示されているとおりの、経済効果につきましては20キロ圏内とか、そういったところでやっているの、その範囲内での考えを、今回の調査としては、その結果として町は受け止めているところです。なので、範囲に含まれていない地域については、今現在はまだ分からないんですけど、今後また再検証とか、まちづくりの熟度が進んで駅の設置の例えばタイヤの本数とか、そういった具体的なものが見えてきた段階に求めるところにつきましては、もっと広い範囲で再検証とか、指定範囲でやっていって、それが寒川町にどの程度波及効果としてまた返ってくるのか、そういうところもまた検証していきたいと思っております。

以上です。

【天利委員長】 小泉委員。

【小泉委員】 私も聞き方が微妙にあれだったかなと思うんですが、つまり倉見20キロ圏で2007年の県の調査においては、市町村名が明記されていて、この中には横浜とか川崎まで入っていないんですね。つまり20キロというのは、同心円上に20キロではなく南北に20キロ、東西はそれほどでもないという範囲内で横浜とか川崎は入らないような形で経済効果というものを、当時2007年段階で図っていると思うんですけども、ここに関しては、県の調査でいっている20キロ圏の範囲は、県の記載どおりだと町としては認識されていますかということを一応確認したかったということで、もう一回、すみません。確認を取らせてください。

【天利委員長】 川部副主幹。

【川部副主幹】 大変申し訳ございません。記載のとおり認識ではおります。

以上です。

【天利委員長】 他に質疑はございますでしょうか。

黒沢委員。

【黒沢委員】 先ほど経済効果については、位置づけも含めて、お話がありました。私もこの陳情を受けたときに、実際再検証になるのかどうかという部分は、ちょっと疑問に思っていて、再検証という形で出てくるんじゃないかと、違う形で出してくるのかなという気がしていたんですね。実際、じゃ、経済効果は、当時の段階では、あくまでも交通ネットワークが整備された場合に、ほかで誘致駅ができた場合、このぐらい出たので、神奈川県このぐらいの規模だと、このぐらいの経済効果があるんじゃないのというところまでしか多分出せなかったんだと思うんですね。これは当然ですよね。なぜかというところ、どういうまちづくりができるかというのは全く反映されないから。正確な経済効果を出そうとした

ら、駅が来ることが完全に決まっています、それからダイヤの本数、例えばひかりが何本走るとか、じゃ、ひかりが何本ここに止るとか、こだまが何本走るとか、そういうことも全部決まった中で、直近のデータでまちづくりもこうやってなるよ、こういう建物がそれぞれのツインシティの大神と倉見に建ちますよ、周辺の整備は何年かけてここまで広げていきますよということが、全て決まった直近の様々な社会情勢、そういったものが全部含まれて出ないと、本当に精度の高い経済効果というのは出せないと思っています。ただ、そうはいつでも、そこまで進めて経済効果を出して、駄目だったじゃんという結果が出た場合、どうするのって話になっちゃうから、あくまでその前段階、比較的将来像がある程度見える段階で何らかを出さなきゃいけない。それって、この経済効果の再検証なのかというのは、ちょっと疑問で、違う形で出してくる可能性もあるんだろうなと思っています。

ただ、今回の陳情者から来ているのは、今すぐこの経済効果を見直せという話で、1年でできなければ、寒川町としては予算を削り、期成同盟会も抜けるべきだというような陳情が出てきているんですね。それは私は全然現実的ではないと思っています。なぜかという、じゃ、平塚も今まちづくりをやっていますけども、あそこでどれぐらい人が集まってくるのかとか、まだツインシティが繋がらない中でも町開きをするので、その状態でどのぐらい来るのかとか、あとは地元の倉見に実際駅が誘致できた場合に、どれぐらいのまちづくりをしていくのかというのがしっかりしていない中で、しっかり絵が描けていない中で、今の段階ですぐに経済効果の見直しをやったとしても、それは全く意味をなさないものになっちゃうだろうなというのが、この陳情を見たときの、ある意味直感的な感覚です。だから今すぐやるというのは全然現実的じゃないし、それが僕は再検証という形ではなくて、再検証で出てくるんじゃないかと、もう少し進んだ中で違う形としての経済効果というのが当然出されてくるんだろうなと、そのタイミングを見極めるといふ部分については、寒川町は地元の責任としてどういう町にしていきたいと思いますよということを地元の理解をいただきながら県に出していかなきゃいけない。そういうものが進んだ段階での、そのタイミングでの経済効果、その時点での経済効果をしっかり出していくということが必要だと考えているんですが、そういう理解でよろしいでしょうか。

【天利委員長】 川部副主幹。

【川部副主幹】 黒沢委員おっしゃるとおりでございます、平成19年につきましては、新駅ができたことによって時間が短縮された効果、それによつての経済波及効果を調べているんですけど、倉見のまちづくりとか、平塚の今進められている大神のまちづくりができたことによつて、またそのまちづくりに対しての経済効果とかも合わせて考えていかなければいけないというところでございます。

そういった中で、そのタイミングを見計らいながら、何が必要かというところについては、また県と調整しながら必要なものを求めていきたいというところでございます。

以上です。

【天利委員長】 他に質疑はございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

【天利委員長】 それでは、以上で質疑を終結いたします。お疲れさまでした。

暫時休憩いたします。

【天利委員長】 休憩を解いて会議を再開いたします。

この後、討論、採決の予定ですが、討論のための休憩についていかがいたしましょうか。そのまま続けてもよろしいですか。

(「はい」の声あり)

【天利委員長】 それでは、これより討論に入ります。陳情第10号 「ツインシティ計画」の「経済効果」の再検証を求める陳情に対して討論はありませんか。まず反対討論のある方。

黒沢委員。

【黒沢委員】 陳情者からも説明をいただいて、また執行部からも行政としての今の考え方を伺ったところでございます。陳情者の陳情内容については、今すぐに再検証しろという内容でしたけれども、しっかりとした経済効果を出すについては、まちづくりがどうなっていくのかということが最低限度検証する材料としては必要なんだろうと思います。陳情者からは、1年とかというのも長いという中でお話しされているので、それは極めて現実的ではないと考えておりますので、この陳情については賛同できないと考えております。

以上でございます。

【天利委員長】 それでは、賛成討論のある方。

(「なし」の声あり)

【天利委員長】 反対討論のある方。

(「なし」の声あり)

【天利委員長】 賛成討論のある、よろしいですか。

(「なし」の声あり)

【天利委員長】 他に討論はございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

【天利委員長】 これをもって討論を終結いたします。

これより陳情第10号を採決いたします。賛成の委員の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

【天利委員長】 賛成の方がいられないというところでよろしいですか。

(「はい」の声あり)

【天利委員長】 よって、陳情第10号は不採択といたします。

以上で、本日の議題は全て終了いたしました。これをもちまして、東海道新幹線新駅対策特別委員会を終了いたします。

それでは、副委員長からお願いいたします。

【山田副委員長】 これをもちまして、東海道新幹線新駅対策特別委員会を終了します。お疲れさまでした。

午前10時10分 閉会

寒川町議会委員会条例第27条の規定により、ここに署名する。

令和5年2月21日

委員長 天 利 薫